

播磨良紀先生略歴

経歴

- 一九七六年 三月 大阪府立阪南高等学校卒業
- 一九七七年 四月 関西大学文学部史学科入学
- 一九八一年 三月 関西大学文学部史学科卒業
- 一九八一年 四月 関西大学大学院文学研究科日本史学専攻博士前期課程入学
- 一九八五年 三月 関西大学大学院文学研究科日本史学専攻博士前期課程修了(文学修士)
- 一九八五年 四月 関西大学大学院文学研究科日本史学専攻博士後期課程入学
- 一九八八年 三月 関西大学大学院文学研究科日本史学専攻博士後期課程単位取得退学
- 一九八八年 四月 関西大学大学院文学研究科日本史学専攻博士後期課程単位取得退学
- 一九九一年 四月 関西大学短期大学助教授(一九九四年四月四日市大学短期大学部に名称変更)
- 一九九七年 四月 四日市大学環境情報学部助教授(二〇〇二年三月まで)
- 二〇〇二年 四月 四日市大学環境情報学部教授(二〇一三年三月まで)
- 二〇〇六年 四月 四日市大学環境情報学部学科長(二〇〇九年三月まで)
- 二〇〇九年 四月 四日市大学環境情報学部学科長(二〇一三年三月まで)
- 二〇一三年 四月 中京大学文学部教授(二〇一三年三月まで)

(非常勤講師など)

- 一九八一年 四月 和歌山市史編纂室非常勤嘱託(一九八八年三月まで)
- 一九八五年 四月 大阪市史編纂所非常勤嘱託(一九八八年三月まで)
- 一九八八年 四月 関西大学文学部非常勤講師(一九九一年三月まで)
- 一九九一年 四月 関西大学 部文学部非常勤講師(一九九五年三月まで)
- 一九九三年 四月 三重大学人文学部非常勤講師(一九九五年三月まで)
- 一九九八年 四月 三重大学人文学部非常勤講師(一九九九年三月まで)
- 二〇〇二年 四月 愛知学院大学文学部歴史学科非常勤講師(二〇一〇年三月まで)
- 二〇〇五年 九月 高知大学人文学部非常勤講師(集中講義)
- 二〇〇八年十一月 放送大学連携公開面接授業講師
- 二〇〇九年 八月 愛知大学文学部非常勤講師(集中講義)
- 二〇一三年 四月 愛知大学文学部非常勤講師(二〇一八年三月まで)
- 二〇一七年 四月 中央大学文学部歴史文化科学科科長(二〇二二年三月まで)
- 二〇一八年二月 岐阜県大河ドラマ「麒麟がくる」推進協議会委員長(二〇一九年二月まで)

主要著作

編著書

- 『四日市学講座 四日市公害を語る 野田之一氏と澤井余志郎氏へのインタビュー』(ブックレット) 二〇〇八年 三月
- 『四日市学講座 戦国時代の北伊勢』(ブックレット) 二〇〇八年 三月

共著

- 『史学雑誌』一〇六編五号 一九九六年の歴史学会 回顧と展望 (日本史中世 戦国を執筆) 山川出版社 一九九七年 五月
- 『街道の日本史』36 南紀と熊野古道 (「山城と戦国の豪族」を執筆) 吉川弘文館 二〇〇三年一〇月
- 『街道の日本史』35 和歌山・高野山と紀ノ川 (「雑賀惣国」を執筆) 吉川弘文館 二〇〇三年一二月
- 『秀吉を支えた武将 田中吉政 近畿・東海と九州をつなぐ戦国史』 (「尾張と田中吉政」を執筆) サンライズ出版 二〇〇五年 九月
- 二〇〇八年一〇月
- 『公害・環境問題史を学ぶ人のために』 (「四日市公害」を執筆) 世界思想社
- 『日記で読む日本中世史』 (「駒井日記」 (駒井重勝) 豊臣秀次側近が記した太閤 関白関係) を執筆) ミネルバ書房 二〇一一年一二月
- 二〇一五年 二月
- 『豊臣秀吉文書集』第一巻 吉川弘文館 二〇一五年 五月
- 『史学雑誌』二四編五号 二〇一四年の歴史学会 回顧と展望 (日本史中世 戦国を執筆) 山川出版社 二〇一五年 五月
- 『豊臣秀吉文書集』第二巻 吉川弘文館 二〇一六年 一月
- 『豊臣秀吉文書集』第三巻 吉川弘文館 二〇一七年 一月
- 『豊臣秀吉文書集』第四巻 吉川弘文館 二〇一八年 一月
- 『豊臣秀吉文書集』第五巻 吉川弘文館 二〇一九年 一月
- 『豊臣秀吉文書集』第六巻 吉川弘文館 二〇二〇年 一月
- 『豊臣秀吉文書集』第七巻 吉川弘文館 二〇二一年 一月
- 『豊臣秀吉文書集』第八巻 吉川弘文館 二〇二三年 一月

学術論文

- 「紀州における宗門改め制度の成立について」『和歌山地方史研究』第六号 一九八三年 三月
- 「秀長執政期の紀州支配について」『安藤精一先生退官記念論集 和歌山地方史の研究』宇治書店 一九八七年 六月
- 「楽座と城下町」『ヒストリア』第一一三号（一九八六年度大阪歴史学会中世史部会大会報告号） 一九八八年 二月
- 「太田城水攻めと原刀狩令」『津田秀夫先生古稀記念 封建社会と近代』津田秀夫先生古稀記念会 一九八九年 三月
- 「豊臣政権と伊勢国 所領関係をめぐって」『四日市市史研究』第七号 一九九四年 四月
- 「織豊期一日三食制成立についての研究的考察」『四日市大学短期大学部研究紀要』第三〇号 一九九七年 三月
- 「豊臣政権と豊臣秀長」三鬼清一郎編『織豊期の政治構造』吉川弘文館 二〇〇〇年 六月
- 「堀内氏と那智」『和歌山地方史研究』第四一号 二〇〇一年 八月
- 「豊臣期の一柳文書について」『織豊期研究』第三号 二〇〇一年 一月
- 「織豊期の生活文化」池享編『日本の時代史一三 天下統一と朝鮮侵略』吉川弘文館 二〇〇三年 六月
- 「雑賀惣国と織豊政権の戦い 雑賀惣国の結集を中心に」『和歌山地方史研究』第四六号 二〇〇三年 六月
- 「徳川家康の花押について」矢田俊文編『戦国期の権力と文書』高志書院 二〇〇四年 二月
- 「松平元康の花押について」『愛知県史研究』第八号 二〇〇四年 三月
- 「Plant Species and Soils Utilized as Famine Foods in Japan.」（大倉克己と共著）
Proceedings of the International Conference on Agricultural Heritage of Asia (ed. Y. L. Nene,) 二〇〇五年
- 「秀吉文書と戦争 小牧・長久手の戦いを中心に」藤田達生編『小牧・長久手の戦いの構造 戦争論上』 二〇〇六年 五月
- 「戦国・織豊期の四日市場の構造」『Mie history』第十七号 二〇〇六年 八月

岩田書店

- 「織田信長の長島一向一揆攻めと『根切』」新行紀一編『戦国期の真宗と一向一揆』吉川弘文館 二〇一〇年一〇月
- 「戦国期伊勢・尾張国境地域の歴史的展開」『年報中世史研究』第三八号 二〇一三年 五月
- 「秀次事件」と妻妾の辞世の和歌」『中京大学国文学』第三三号 二〇一四年 三月
- 「羽柴秀吉文書の年次比定」『織豊期研究』第一六号 二〇一四年一〇月
- 「秀吉」と家康 豊臣政権の中核で、積極的な役割を果たした家康」平野明夫編『家康研究の最前線』洋泉社新書 二〇一六年一月
- 「今川義元の西上と 大敗」黒嶋敏編『戦国合戦 大敗 の歴史学』山川出版 二〇一九年 五月
- 「織田信長印判状論」矢田俊文編『戦国期文書論』高志書院 二〇一九年一月
- 自治体史（共著）
- 「和歌山市史 第二巻 通史編近世」和歌山市 一九八九年 三月
- 「和歌山県史 人物」和歌山県 一九八九年 四月
- 「四日市市史 第八巻 史料編近世」四日市市 一九九一年 三月
- 「四日市市史 第九巻 史料編近世」四日市市 一九九三年 三月
- 「鵜殿村史 通史編」三重県南牟婁郡鵜殿村 一九九四年一〇月
- 「四日市市史 第一〇巻 史料編近世」四日市市 一九九五年 三月
- 「四日市市史 第一七巻 通史編近世」四日市市 一九九九年 三月
- 「四日市市史 第二〇巻 年表・索引編」四日市市 二〇〇二年 一月
- 「多度町史 資料編二 近世」三重県桑名郡多度町 二〇〇四年 三月

- 『愛知県史 資料編一』 織豊一』 愛知県 二〇〇三年 三月
- 『愛知県史 資料編一二』 織豊二』 愛知県 二〇〇七年 三月
- 『熊野川町史 通史編』 和歌山県新宮市 二〇〇八年 三月
- 『古座町史料 捕鯨編』 和歌山県東牟婁郡串本町 二〇〇八年 三月
- 『愛知県史 資料編一三』 織豊三』 愛知県 二〇一〇年 三月
- 『三重県史 資料叢書五 藤堂高虎関係資料集 補遺』 三重県 二〇一一年 三月
- 『龜山市史 通史編 古代・中世』 三重県龜山市 (DVD) 二〇一二年 三月
- 『愛知県史 資料編一四』 中世・織豊』 愛知県 二〇一四年 三月
- 『三重県史 資料編 中世三(上)』 三重県 二〇一七年 三月
- 『三重県史 通史編 近世一』 三重県 二〇一七年 三月
- 『新修豊田市の史 資料編 古代・中世』 豊田市 二〇一七年 三月
- 『三重県史 資料編 中世三(中)(下)』 三重県 二〇一八年 三月
- 『愛知県史 通史編三 中世2・織豊』 愛知県(執筆・監修) 二〇一八年 三月
- 『新修豊田市の史 通史編 古代・中世』 豊田市 二〇二〇年 三月
- 『新修豊田市の史 総集編』 豊田市 二〇二三年三月刊行予定
- 研究ノート・史料紹介・書評
- 『書評『貴志川町史』第三卷』 『和歌山地方史研究』 第四号 一九八二年 七月
- 『紀州における豊臣秀吉の寺院焼打ちについて』 『和歌山市史研究』 第一一号 一九八三年 三月

- 「桑山重晴について」『和歌山市史研究』第一二号
一九八四年 三月
- 「『日宮神領・雑賀莊堺芝三問・三答写』再録」『和歌山市史研究』第二三号
一九八五年 三月
- 「豊臣期紀州に関する二つの史料」『和歌山地方史研究』第九号
一九八五年二月
- 「一庵法印なる人物について」『和歌山市史研究』第一四号
一九八六年 三月
- 「再び桑山重晴について」『和歌山市史研究』第一五号
一九八七年 三月
- 「豊臣秀吉福田牛助宛知行方目録」について」『和歌山市史研究』第一六号
一九八八年 三月
- 「書評 下村信博著『戦国・織豊期の徳政』」『日本歴史』第六一〇号
一九九九年 三月
- 「四日市市域寺院所蔵の中・近世史料」『四日市市史研究』第一三三号
二〇〇〇年 三月
- 「豊臣秀次の尾張支配に関する一史料」『織豊期研究』第二号
二〇〇〇年一〇月
- 「三重郡菰野町の太閤検地帳」『三重県史研究』第一六号
二〇〇一年 三月
- 「中世紀伊国の土地関係史料（一）」『四日市大学環境情報学部論集』第八卷一
二〇〇四年一〇月
- 「中世紀伊国の土地関係史料（二）」『四日市大学環境情報学部論集』第八卷二
二〇〇五年 三月
- 「史料紹介 三河国賀茂郡桑原村の太閤検地帳と中村名寄引高帳」『豊田市史研究』第二号
二〇〇一年 三月
- 「史料紹介 関白殿物語 上」『愛知県史研究』第一六号
二〇〇二年 三月
- 「史料紹介 関白殿物語 下」『愛知県史研究』第一七号
二〇〇三年 三月
- 「史料紹介 伊藤宗十郎家文書」『年報中世史研究』第四一号
二〇一六年 五月
- 「書評『地方史研究の最前線 紀州・和歌山』」『歴史科学』第二五二号
二〇一三年 二月

講演録

- 「四日市と徳川家康 豊臣政権期の四日市の姿を探る」 『四日市市史研究』 第一四号 二〇〇一年 三月
- 「長島一向一揆と尾張」 『愛知県史研究』 第九号 二〇〇五年 三月
- 「花押からみた徳川家康」 『美術博物館家康公四百年祭講演録 三河時代の家康を考える』 岡崎市美術博物館 二〇一七年 三月
- 「戦国・織豊期の尾張・三河」 『愛知県史研究』 第二二号 二〇一八年 三月
- 「東海道文化と現代 四日市宿と湊」 『伝統文化と近代 富田の地域共同体活性化をめざして』 賑わいのある文化の香るまちづくり委員会 二〇一九年 三月
- その他（辞書・コラムなど）
- 『日本歴史地名大系 第三二巻 和歌山県の地名』（寺社名執筆） 平凡社 一九八三年 二月
- 『角川日本地名大辞典 27 大阪府』（城郭地名執筆） 角川書店 一九八三年一〇月
- 『角川日本地名大辞典 31 和歌山県』（和歌山市地域地名執筆） 角川書店 一九八五年 七月
- 読書会編 『駒井日記』 索引 人名篇 共著 『史泉』 第六三三号 一九八六年 三月
- 読書会編 『駒井日記』 索引 地名篇 共著 『史泉』 第六四号 一九八六年 三月
- 『和歌山築城三百五十年祭』 『和歌山地方史研究』 第一〇・一一号 一九八六年 七月
- 『私と卒業論文』 『キャンパスニュース』 第二号（暁学園短期大学） 一九九〇年 三月
- 『日本全史（ジャパングロニック）』（「都道府県の歴史」近畿担当） 講談社 一九九一年 三月
- 『国史大辞典』 第二二巻 共著 吉川弘文館（紀州寺院など執筆） 一九九一年 六月

- 『国史大辞典』第一四巻 共著 吉川弘文館（紀州関係項目など執筆）
- 『クロニック戦国時代』（「三重県」部分担当）講談社
- 『郷土の歴史 本陣の食事（一）』『広報よっかいち』一〇〇〇号
- 『郷土の歴史 本陣の食事（二）』『広報よっかいち』一〇〇一号
- 『織田・豊臣政権と尾張 討論にむけて』『織豊期研究』創刊号
- 『町史編纂コラム 多度歴史手帳第五回 信長自ら語る長島一向一揆の終焉』『広報たど』第四二六号
- 『聞き書レクチャーこの時代 刀狩の真のねらいと「秀吉の平和」』『再現日本史 織豊』共著 講談社
- 『コラム 粉河莊東村の「とつふ屋」さん』『きのくに莊園の世界』下巻 清文堂
- 『中世史を問い直す 討論記録』司会『年報中世史研究』第二八号
- 『町史編纂コラム 多度歴史手帳第三五回 法泉寺の寺領獲得』『広報たど』第五二六号
- 『歴史考古学大辞典』（中世史跡・文献など執筆）吉川弘文館
- 『「教研」からFD教育へ 自分と周辺の教育実践』『愛知大学文学部FD通信』二〇〇六
- 『全体討論「都市をつなぐ」』司会『中世都市研究』十三 都市をつなぐ 新人物往来社
- 『レポートはどうすればうまく書けるか』『叢淵』第二二号
- 『その時「歴史」は動いた？』『四日市大学学報』第五四号
- 『豊田地域の太閤検地帳について』『新修豊田市史だより』第五号
- 『懐刀乱麻 豊臣秀長』M T 価値創造のためのメンバースhipマガジン』第三六七号
- 『百舌鳥陵山古墳外溝柵改修工事にもなつ立ち合い見学会参加記』『地方史研究』第三五七号
- 『小堀正次と豊臣秀長 遠州登場前夜 第一回浅井氏と小堀一族』『月刊遠州』五六九号

一九九三年 四月
 一九九五年 二月
 一九九七年 六月
 一九九七年 六月
 一九九九年 一月
 二〇〇一年 八月
 二〇〇一年 十月
 二〇〇二年 二月
 二〇〇三年 五月
 二〇〇四年 二月
 二〇〇七年 三月
 二〇〇七年 三月
 二〇〇七年 九月
 二〇〇八年 三月
 二〇〇九年 七月
 二〇一〇年 一月
 二〇一〇年 五月
 二〇一二年 六月
 二〇一三年 十月

- 「小堀正次と豊臣秀長 遠州登場前夜 第二回正次、秀長に仕える」『月刊遠州』五七〇号 二〇一三年一月
- 「小堀正次と豊臣秀長 遠州登場前夜 第三回小堀正次の丹波・播磨での活躍」『月刊遠州』五七一号 二〇一三年二月
- 「小堀正次と豊臣秀長 遠州登場前夜 第四回検地奉行小堀正次」『月刊遠州』五七二号 二〇一四年一月
- 「小堀正次と豊臣秀長 遠州登場前夜 第五回秀長重臣として活躍」『月刊遠州』五七三号 二〇一四年二月
- 「小堀正次と豊臣秀長 遠州登場前夜 最終回小堀正次と小堀遠州」『月刊遠州』五七四号 二〇一四年三月
- 「秀吉文書を並べてみると……」『平成二六年度名古屋博物館特別展 三英傑と名古屋 図録』名古屋博物館 二〇一四年一〇月
- 「徳川家康の花押」『平成二六年度名古屋博物館特別展 三英傑と名古屋 図録』名古屋博物館 二〇一四年一〇月
- 「口絵解説 織田信長朱印状」『愛知県史研究』第一九号 二〇一五年三月
- 「私は蘭田先生の弟子です」『悠然見南山 蘭田香融先生追悼文集』蘭田香融先生追悼文集刊行会 二〇一七年八月
- 「歴史REAL 織田信長」洋泉社 共著（織田一族を執筆） 二〇一八年五月
- 「口絵解説 伊藤宗十郎家文書」『日本歴史』第八四一号 二〇一八年六月
- 「専門部会・部会長からひとこと」『愛知県史研究』第二四号 二〇二〇年三月